

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <p>人材育成の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神“Mastery for Service”を体現できる世界市民の育成（平和な社会を築く担い手としての世界市民） 2. 関西学院大学の中核となる生徒の育成 3. グローバル社会を生き抜くアクティブラーナーの育成 <p>教育の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教主義教育に基づく全人教育 2. 礼拝(聖書)、人権教育、平和教育、国際理解教育、自治活動、HR活動、クラブ活動やボランティア活動など、あらゆる教育活動を通して基礎学力の定着を図り、批判的思考力、判断力、表現力、探究する力を養う 3. すべての教育活動において、「Kwansei コンピテンシー」の育成を念頭に置いた、(教育基盤)改善の取り組みを行う 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神“Mastery for Service”が実践できる場があらゆる教育活動において提供されている 2. 全教員が高等部の目指す学力および学力観を共有し、主体的に学ぶ力を持ったアクティブラーナーを育成している 3. 多様性に富むインクルーシブ・コミュニティーが形成されている 4. 生徒が他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を自分の言葉で表明する、また自らの確かな情報を得て判断行動することができる
<p>2. 児童・生徒獲得の方針</p> <p>・優秀な生徒を確保するため、入試・広報戦略の見直しを行う</p> <p>生徒に引き続き「選ばれる高等部」であるために、これまでの広報戦略を見直し、より多くの中学生・保護者等に、より効果的に高等部をアピールし、「第一志望」としてもらおうための努力をする</p> <p>具体的には、以下の4点の改善を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 入試制度の改革に着手 ② 学校案内等各種広報ソールの改善 ③ 費用対効果を検証した上で、新規の広告媒体への出稿や外部説明会の実施を検討 ④ オープンスクールや外部説明会実施方法の改善 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等部の教育目標により合致した、新しい入試制度が完成している。 2. 入試倍率・入学者(特に上位層)の成績レベルが維持されている。 3. 外部での学校説明会などにおいて、高中教員がそれぞれの学校について、十分な説明ができる
<p>3. 中期的な課題</p> <p><フェーズⅡ(2022～2024)></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教主義に立つ建学の精神を堅持するための教員研修 2. 教員の労働環境の改善を図り、適切なワークライフバランスの確立を目指す(特にクラブ活動における教員の関わり方を改善し、仕事の軽減化にむける) 3. 「Kwansei コンピテンシー」を身につけるため、正課・正課外教育の中で、ICT を適切に用いながら、批判的思考力、判断力、表現力、探究する力を養う、アクティブラーニングの実施及びカリキュラム化 4. 初・中・高間での情報および学力観の共有 5. グローバル人材育成と国際理解教育・人権教育の充実 (ATE教員の長期雇用) 6. 入試・広報戦略の確立と広報活動の高中部としての一貫教育を生かした一体化 7. 財政基盤の強化のための募金活動の推進 	

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに ○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 高等部から大学への内部進学率維持(21年度実績 94.8%)	○
③ 高等部生の「学びの先取り」の具体的検討と推進	○
④ 「大学生メンター制度」の展開	○
⑤ 働き方改革に伴う各施策	
⑥ 「Kwansei コンピテンシー」の育成のための教育目標の策定と、その目標達成のための基礎学力、批判的思考力、判断力、表現力、探究力向上のための教育の活性化	
⑦ グローバル人材の育成と国際理解教育の充実	
⑧ 策定された教育目標に沿った入試制度改革とそれに基づいた広報戦略の強化	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- | | |
|--|---------------|
| ① スクールモットーの認知度・共感度 | ② 内部進学率 |
| ③ 新たな「学びの先取り」科目の設定 | ④ 働き方改革の進捗度合 |
| ⑤ 「Kwansei コンピテンシー」育成のための教育目標設定と教育の活性化 | |
| ⑥ 生徒対象のアンケート調査 | ⑦ 入試制度改革の進捗度合 |

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2022年3月時点)

<p><1. フェーズⅠの中期計画の取組みにより明らかになった課題></p> <p>各重点施策に対応した課題</p> <p>③ 一定の進捗が見られたが、大学英語インテンシブコースにおける単位修得における調整がまだ必要である。</p> <p>④ 効果の検証がコロナ禍のため十分にできず、大学生メンターの確保の難しさもある。また、この制度をコーディネートする教員の負担軽減策も必要である。</p> <p>⑤ 経済産業省「未来の教室」実証事業の完了において、クラブ活動の新しいプラットフォームを構築のための問題点を洗い出し、法務面、財務面を含めて種々の問題が顕在化した。</p> <p>⑥ 教育目標を設定するための、全教員での会議がコロナ禍で途絶えていたが、「高等部みらい会議」として再開し、ボトムアップ型での議論から高等部として議論すべきポイントが浮き上がった。ただ、「働き方改革」と並行しての取り組みであることから、限られた時間、回数での会議となることから大きな進展に至らないという課題を抱えている。</p> <p>⑦ 文部科学省事業、ワールドワイドラーニングコンソーシアム支援事業が2021年度で完了し、その後高等部として自走をしていくことになるが、そのための新しい組織を立ち上げ、その事業を継承していくにあたって、人的、財政的な支援が必要となる。また、全教員やすべての授業に「探究型授業」の理念や手法などが共有され、実施されるための研修が必要である。</p> <p>⑧ どのような生徒に入学してほしいかの議論から、入試制度改革に着手する端緒についたが、限られた予算での広報戦略展開には難しさがある。</p>
<p><2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題></p> <p>● 学習指導要領改訂、文科省指定事業、ワールドワイドラーニングコンソーシアム(WWLC)支援事業の継続による探究型授業のさらなる深化のための方策などによる、教育課程そのものに関わる大きな変更による教員の戸惑いや共通理解・認識不足があるが、一方でWWLC事業などを通じて教員の授業改善や学力保障や向上に対する意識が高まったことは間違いなく、それが現状への否定的な評価につながっていると考えられる。来年度は教育目標を教員全体で議論し構築することをもって、また研修の機会を増やし、教員全体での共有意識を高めるための努力を行う。それと同時に探究型の学びは基礎学力の上に成り立つものと考えられるので、基礎学力向上に向けた取り組みと探究型の学びとの連続性を検討することが必要である。</p>

- できるだけ個々の生徒に届く注意喚起などの指導に徹したものの、全体への場が失われたこともあり、十分な指導徹底に至らなかったことは否めず、それが生徒の回答結果として表れている。さらに同様に教員の中での評価にもつながっていると考える。また、登下校時のマナーを含め、集団での移動時における生徒の意識向上には課題が残っている。その都度指導を入れているが、大きな効果はなく今後の改善事項となる。
- 男女共学化が完全に定着した現在、女子生徒のみならず男子生徒の中にも男女共学化、定員増に対する施設・設備に対する不便さを感じており、コロナ禍の影響での施設・設備利用の制限もあるが、その実態把握に努める必要がある。

<3. 上記1, 2を踏まえたフェーズⅡ(2022-2024)に向けた展望>

高等部の細部にわたる教育目標の策定作業がコロナ禍のために中断したが、これを再開して、基礎学力、批判的思考力、判断力、表現力、探究力向上に向けた教育課程を新学習指導要領にも対応させながら整備し、併せて「探究型授業」の評価法についての研究も深め、高等部での学びの評価が大学推薦にもつながる、教員が一致した評価できる方法を確立していく。また、それらが授業にとどまらず、高等部のすべての教育活動が有機的に連続性をもったものに改善していく、高等部における教育目標がどの場面でも達成できるような改善を図っていく。

新たな「学びの先取り」科目のさらなる設定や、WWLC事業を 2021 年度に終えるが、それらの事業内容を継続、継承し、さらに「Kwansei コンピテンシー」が育成される環境の整備を行い、その教育を受けた生徒による内部進学率が 94%となる。

また、その教育活動にあたる教員の「働き方」への改革への具体的な施策(特にクラブ活動)を実現化し、本来的な教育活動に向ける時間が増加している。そして、コロナ禍で実施に至らなかった目標達成のための諸活動を再開させる。そして、高等部が LGBTQ を含むインクルーシブな教育環境整備し、教員・生徒の理解・意識を深め、多様性のある共同体を目指す。

取り組みの全体像(イメージ)

“Kwansei Grand Challenge 2039”長期戦略テーマ:「特長ある一貫教育の創出」・「内部進学者の増加」

“Mastery for Service”を体現する
世界市民の育成

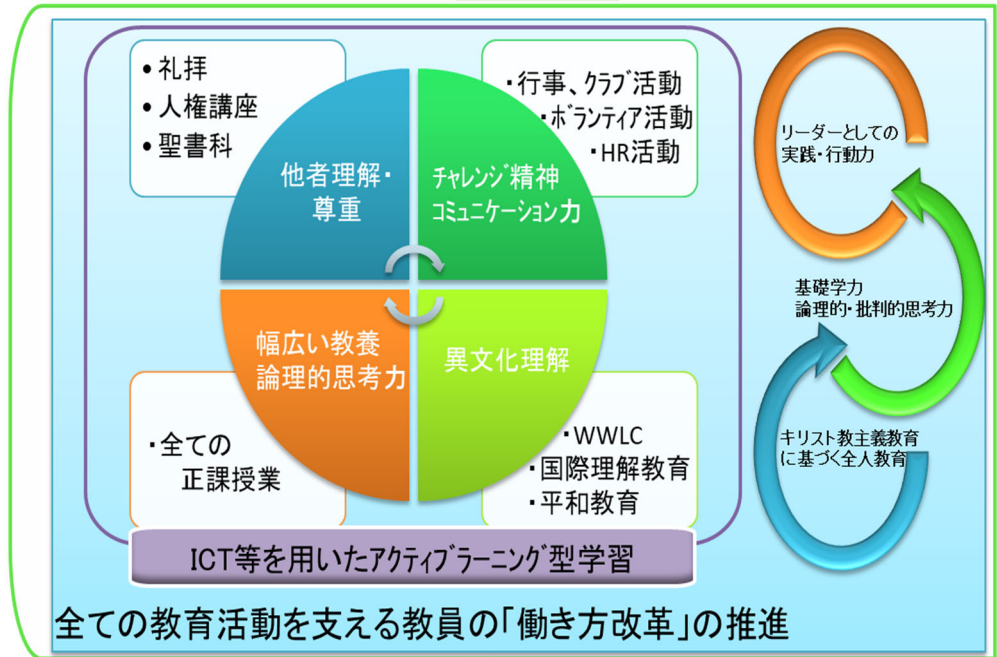
感謝・祈り・練達

“Mastery for Service”を实践
する場としての
高等部

優秀な
生徒確保

関西学院大学の
中核を担う生徒

- ・主体的に学ぶアクティブラーナー
- ・ダイバーシティ、インクルーシブな感覚
- ・グローバルな視点と課題解決力・行動力



「第一志望」として
選ばれる高等部

- ・入試制度改革、広報戦略強化
- ・初等部・中学部との更なる連携強化

関西学院中学部

関西学院初等部

以上